

2015年3月27日

なつかしの房総の玄関口

# 「両国ステーションギャラリー」が オープンします！

両国駅開業 111 周年を迎える 2015 年 4 月 5 日(日)、房総方面への長距離列車の発車ホームとして利用された3番線の通路が「両国ステーションギャラリー」として生まれ変わります。

「両国ステーションギャラリー」は、展示パネルを多数掲示し、房総の玄関口としての両国駅の歴史を身近に味わっていただけるスペースです。ぜひ、みなさまのお越しをお待ちしております。

## 1 オープン日

2015年4月5日(日)

※4月5日(日)は開業 111 周年(1904年4月5日開業)

## 2 両国ステーションギャラリーのオープン時間

10時～17時

## 3 展示物

「両国駅歴史展」として全44枚のパネルを展示しております。

表紙・プロローグ等 3枚

両国駅の歴史 10枚

両国駅周辺の歴史 10枚

なつかしの列車 21枚

### ◆エントランス



### ◆ギャラリー内





(イメージ)

## 4 両国駅 3 番線の歴史

1904年両国橋駅が開業し、その後1923年の関東大震災で駅舎が焼失しました。1929年には、現在の駅舎に改築され、1931年に「両国橋駅」から「両国駅」に改称されました。1932年の両国～御茶ノ水開通時に、3番線通路が使用開始されたと言われています。



(参考) 展示パネルの一例

## 両国橋駅の開業

明治37年(1904)年4月5日、東武鉄道の本所一両国橋間の開業に合わせて、東武鉄道も貨物列車を運行させ、両国橋駅まで乗り入れて都心側のターミナルとしました。この時、東武鉄道は本社を両国に移し、それまで拠点だった吾妻橋駅(現在のとうきょうスカイツリー駅)を廃止して両国橋駅を拠点としましたので、現在の東武亀戸線は東武鉄道の本線となりました。

東武鉄道が国有化され、再びターミナルを吾妻橋駅に戻して通車駅と改称した明治43(1910)年3月までの短い期間ではありますが、両国橋駅は房総方面、北関東方面の玄関口であったといえます。

## 両国駅の再興 ～海水浴輸送・優等列車始発駅～




昭和7(1932)年に新武蔵が中央線につきなり、昭和10(1935)年に千葉まで電化されると、通勤などの通勤列車用者は次第に両国駅を通過するようになっていきました。しかし、高度経済成長により通勤客が増え、房総方面が海水浴などのレジャーの目的地として観光を呼び寄せ、通勤列車の始発駅である両国駅は、夏季を中心に再び活気を取り戻します。

昭和33(1958)年には新子行の通勤列車、準急「大快」がデビュー、その後、房総東線・房総西線・成田線にも準急が設定され、通勤客0回45年10月のダイヤ改正では、定期列車として内房が亀戸発、外房が亀戸5発、鎌子-成田方面4発の計15往復の運行が元りました。さらに7月～8月には臨時列車が設定され、昭和46年の夏には13往復半の両国始発の急行・快速が発車してまいりました。

シーズン中の午前中は、地平ホームの風景専用改札から駅前広場にかけて奥の列がでま、両国ホームに降り立つ乗客のお客さまは、両国を堪能しようとする乗客を抱えて地平ホームへ戻ります。駅前広場やホームの風景のない両国には、夏が過ぎるの日に限りが設置され、真の高層駅ともなりました。








## 再び房総の玄関口として ～両国駅臨時ホームに最近入線した列車～


現在は臨時列車しか停車しない両国駅の臨時(仮)ホームですが、房総方面のイベント列車などの田舎駅として重要なお客さまに喜んで臨時ホームに入線しています。








## 急行全盛時代

**■153系**  
 準急(急行)用両国線電報として昭和33(1958)年に誕生した。通勤客の増加に伴って両国まで延伸を促したパンフレットを運用した。車内はボックスタイプのクロスシート、両端運転での運用のため、千葉駅まで15分(1974)年10月に完成した急行(成田-両国)両線の電化に合わせて両国線電報に転換され、153系と共に急行「大快」「内房」「外房」などが活躍し、キハ28系・キハ50系を置き換えた。



